

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	DV 被害者困窮一人親家庭シェルター増設
資金分配団体名:	中国5県休眠預金等活用コンソーシアム
実行団体名:	特定非営利活動法人オリーブの家
実施時期:	2021年7月～2021年12月
事業対象地域:	岡山県
事業対象者:	DV虐待被害者及び困窮ひとり親家庭の親子

Version 3.2

日付: 2022/1/15

I. 事業概要

事業実施概要	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止による外出自粛が、もともとDVが行われていた家庭に追い討ちをかけている。被害者と加害者が関わる時間が長くなった為、潜在化していたDVや虐待が顕在化しエスカレートし全国的に相談件数が増えている。当法人でも増加する相談や保護依頼に対応するため、シェルターの増設をおこなった。</p> <p>特に今回の事業では、「親子と一緒に」「長期入居できる」という点に力を入れて、シェルター整備をおこなった。当事者の利用にあたっては、入所から退所そしてアフターフォローまで、理事と入所者が入るLINEグループで、きめこまかな相談対応をするなど、丁寧なサポートと継続的な支援活動にあたった。</p> <p>加えて、行政では介入しづらい部分について、専門家や地域との連携によるサポート体制の構築にも取り組んだ。</p> <p>またスタッフを1名雇用した上で、ボランティアを中心とする人的基盤の強化を図った。行政や警察や学校は介入しづらい家族間のトラブルなどの問題に一步踏み込んで解決を図るために、弁護士や心理士を講師に迎え、スタッフやボランティアを対象に倫理観、知識、スキルを高められる勉強会を実施した。</p>
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>■課題設定について 新規シェルター開設により、多くの方を保護することができた。新型コロナの影響の長期化と2度の緊急事態宣言に伴い、相談件数や入居の問い合わせは当初の予想を遥かに越えた。多様な困難に直面するDV被害者への支援において、幅広い利用条件や365日対応可能な民間シェルターならではの柔軟性と、心理士等の専門家や元当事者による支援体制が、成果に寄与したと考えている。</p> <p>■対象設定について DV虐待被害者親子を対象として実施した。「これまで親子で同じ場所に逃げられないから避難を諦めていた」という利用者の声を多数確認した。それら利用者の声より、対象設定は適切だったと捉えている。</p> <p>■今後の課題 協力団体へのリファーにも取り組んだが「相談には乗れるが直接的な支援は難しい」と言われるケースもあった。被害者のさらなる居場所の確保と共に、①「支援者間での連携やノウハウ共有」を進めることの重要性を感じた。シェルターの利用中の支援としては②「子どもへのケアができる体制整備」③「貧困を伴うケースに対応できる仕組みづくり」が課題である。加えて④「地域における福祉課題への対応」も今後必要と考えられる。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	シェルター利用中の支援の充実	対象親子がシェルターで保護され新しい環境で、精神的にも社会的にも自立した暮らしが出来ている	シェルターを利用した親子の数	<p>■シェルター利用者数 8名（親子を2名と想定）</p> <p>■精神面・住居面・経済面で退所後の生活の目的が立つ</p>	<p>■保護 22名 ・平均滞在日数 18日 （利用中の方の予定も含む）</p> <p>■利用者内訳 ・親子利用：8世帯 ・単身利用：3名</p> <p>■退所後の概況 支援継続中の利用者もいるが、14名（単身1名、親子6世帯）退所まで支援することができた。いずれのケースも、関係者と相談や連絡調整を重ね、当事者の周囲に「身近な支援者」がいる状態をつくることができた。その上で、自立や自活への繋げることができた。</p> <p><概況一例> ・心理的恐怖が払しょくできた後、親子でアパートを借りて新生活を開始。 ・ご実家との関係性を再構築でき、実家で新生活を開始。 ・新たに仕事に就けたことで夫と離婚し、親子でもともと暮らしていた地域で新生活を開始。</p>	<p>■受益者 DV虐待被害者及び困窮ひとり親家庭の親子</p> <p>■結果の背景 元々DV虐待環境にあった家庭や親しい関係者間で、コロナ禍の自粛の影響や長引くストレス、経済問題、仕事の制限等により問題が悪化。さらにこれまで問題がないと思っていた家庭にも影響があり、当事者がDVや虐待を認識して相談や保護が増えた。</p> <p>県内外からの問い合わせがあったが、オリーブの家に助けを求めた理由としては、HPやSNS情報発信数が多いため、インターネットで検索した際に上位にあがることや、メディア取材の記事を見たり、シェルターの内部や支援の内容が相談者のニーズに合っていたことが推測される。また、利用者の声より、特に長期滞在できることや親子で入れることへのニーズの高さが伺えた。</p> <p>■取組や対応 目標とする状況の達成に向けて、支援段階を意識して支援を行った。</p> <p>入居受け入れ前の活動としては、情報発信（パンフレットチラシの配布、ホームページ更新、SNSブログの配信、メディアへの報告）、紹介先との相談連絡、方針決定（警察、行政、他団体、被害者家族や友人）、電話相談及び面談、被害の詳しいヒアリング、インテーク面接等を行い、課題の把握や役割分担を明確にした状態で支援することを意識した。</p> <p>その結果、生活面の課題だけではなく、行政手続き等専門的な問題が出た際の対応が非常にスムーズに行えた。また、入所するまでの移動の際も支援を行うことで非常に安心したという声があり、細部にわたる気配りも非常に重要であった。</p>

						<p>入居してからは、利用者は自炊し買物などは外出恐怖のある方には、スタッフかボランティアが代行した。また、健康のための運動や食事改善の指導(スタッフや看護師)をした。さらに行政機関(教育委員会、学校、子ども課等)と連携し、お子さんの状況把握周知と学習支援に取り組んだ。加えて、必要時には生活保護申請支援を行った。</p> <p>■利用中の支援における今後の課題</p> <p>①シェルター利用の子どもへの学習支援</p> <p>②貧困を伴うケースが増えているため、自立までの間のシェルター利用料を無償化できる仕組みや生活支援の充実。</p>
--	--	--	--	--	--	---

IV. アウトカム(事業実施以降に目標とする状況)*

事業実施以降に目標とする状況	<p>①シェルターを利用したことで、恐怖から解放され、笑顔で仕事や学校に行き、心の自由を取り戻して、親子が新しい居場所を見つけて普通に暮らしている。</p> <p>②継続した運営を行い、岡山県北の課題を解決する新しい居場所として定着している。</p> <p>③事業の成功が目ざされ信頼に繋がりがご寄付や会員の増加、助成金の採択増加などでより安定した継続事業となっている。</p>
考察等	<p>①経済的課題を抱える当事者については、行政と協力しながら対応にあたった。実家に相談できない利用者には、スタッフが第三者的立場で連絡や相談を進めて支援に繋げた。また避難してきた子どもは、元々不登校に陥っているケースもあったり、シェルターで暮らすという非日常的な状態にあることから、学習の機会を失うことが多い。親も自身の状況改善で精一杯であるため子どもに十分な対応ができないこともある。そのため、入所中及びアフターフォローとして、学習支援等の子どもへのケアのさらなる充実が必要と考えている。</p> <p>②民生委員への働きかけをおこない、DV問題の実態を理解していただくと共に高齢者虐待でもシェルター利用が可能であることを伝えられた。民生委員の役割の見直しをしたいとの申し出もあったため、今後、地域の課題解決についても委員らと検討予定。</p> <p>③積極的な情報発信に努めた。結果、県内外の支援団体からのノウハウ提供依頼や連携の申し出が4団体(県内1、県外3)からあり、12月には1団体実際に利用者を繋いだ。また、企業・個人それぞれからの寄付が増加した。</p> <p>①～③を通じて、支援団体間の連携体制のさらなる構築が必要と感じた。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
不動産設備準備	計画通り	空調設備、家電製品・生活に必要な日用品等の準備を中心に行った。多くの方が経済的にも厳しい状況にあるため
シェルターについて、関係各所に連絡	計画通り	親子で一緒に入所できるシェルターについて、関係各所に連絡(行政・児童相談所・警察・男女共同参画・他団体シェルター等)
情報発信	計画通り	パンフレットチラシの配布、ホームページ更新、SNSブログの配信、メディアへの報告
シェルター保護	計画通り	必要な方はスタッフが送迎、詳しいヒアリング(離婚・心理・健康・経済面等の把握)、ルール説明と案内
入所中の支援	計画通り	利用者は自炊し買い物などは外出恐怖のある方にはスタッフかボランティアが代行を行った。
退所支援	計画通り	退所後の自立に向けての意向をヒアリング・関係各所と連絡連携を行う。
アフターフォロー	計画通り	退所後は希望があれば生活の様子を報告をしていただき、困りごとが起きた時は相談や再入所の検討を行った。
相談支援スキルアップ勉強会開催	計画通り	毎月1回理事会でのケース会議、個別にスーパーバイズ、弁護士による勉強会1回。相談支援員とのオンライン勉強会2回開催。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>■想定を超える県外「当事者」からの相談</p> <p>DV被害者が本来ならシェルター利用せず県外のご実家に帰る予定が、緊急事態宣言が出された県からの移動措置として、2週間の待機を当法人シェルターでできないかと要望があり、1組の親子と2人の女性を待機場所として一時保護した。岡山県だけではなく、県外からの問い合わせもあり、県内だけでなく他県の運営団体との連携の重要性も明らかになった。民間シェルターは先駆的であり、柔軟性、地域性、専門性等の強みを有しており、緊急事態宣言等の非常時には不可欠な社会資源になる。今後も予測不可能な問題が、出てくるのが予想され柔軟な対応ができるように常に活動についての省察を行い、より包括的な支援の実現に向けて活動を行っていく。</p> <p>■県外「支援団体」からの相談依頼</p> <p>県内外からの支援団体からのノウハウ提供のお願いや、視察、連携の申し出が4団体からあった。2021/12に1団体への利用者紹介実現。</p>
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>当初の予想をはるかに越える相談が当団体にも寄せられた。理由としては被害者と加害者が関わる時間が長くなったこと、潜在化していたDVや虐待が顕在化しエスカレートしたことが考えられる。</p> <p>■親子で入居できることに対するニーズ</p> <p>「親子入居だから避難を決意できた」という声が多くあり、親子一緒に我慢している状況が発生していたことを再確認した。またコロナによる失業で貧困に陥ったケースが増えており、国や社会福祉協議会からの支援に頼っているケースが増えていることがわかった。子どもへのケアの充実も今後の課題である。</p> <p>■新たに確認したニーズ①</p> <p>地域(民生委員等)への働きかけにより、高齢者の虐待も地域内にあることが見えてきた。掘り起こされるニーズに対する支援体制構築も今後必要である。</p> <p>■新たに確認したニーズ②</p> <p>支援者間での連携やノウハウ共有が十分ではなく、相互にリファーできない状況がある。今回の事業期間でも部屋が足りず対応できなかったケースもあることから、シェルター増加が望まれる。建物だけでなく、新たにシェルターをつくる人への情報やノウハウ提供と、課題の現状について社会的認知を高める取組が必要である。</p>
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
西村総合法律事務所 代表弁護士 西村	保護した際、離婚相談や経済的な問題を法律の観点からアドバイスしてもらった。実際に離婚が成立した事例もあった。
高見徳風会希望ヶ丘ホスピタル	入所されている方が、医療の観点からカウンセリングや治療を必要とする場合に協力してもらった。
津山児童相談所	保護した親子の子どもが自立援助ホームに入所を希望したため、措置依頼をNPO法人ゆいかに連絡。他にも事例の相談に乗ってもらっている。
メンタルケア学会所属 メンタルケア心理専門士	入所された方が、今後の不安や虐待による心のケア等を実施してもらった。退所される前も自立した生活が送れるようにケアを依頼した。

NPO法人ゆいか	保護した親子の子どもの兄も支援が必要だったため、児童自立生活援助事業(自立援助ホームQuatre)を運営するNPO法人ゆいかに依頼した。
----------	--

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	23,570,000	23,665,048	100.4%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		23,570,000	23,665,048	100.4%
補足説明		実績額：助成金 23,570,000 自己資金 95,048		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	OHK取材 (放送とyahooニュースへの掲載) ・1回目 https://youtu.be/Mb273FAE8HM ・2回目 https://youtu.be/SRwrwC2j2gQ ・3回目 https://youtu.be/i7tTcY-AhAo ○クラウドファンディングページ： https://readyfor.jp/projects/covid_dv ○読売新聞 DVシェルター運営法人としての現状 ○CCJA2021JAPANファイナリスト https://www.youtube.com/watch?v=XKoe_CoCiEE ○テラコヤプラス https://terakoya.ameba.jp/a000001768/
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	新築シェルターへの掲示 団体ホームページへの記載 (https://olivehouse1225.wordpress.com/aboutolivehouse)
4.報告書等	月次報告書を提出し、その内容について岡山NPOセンター担当者と省察し、翌月の活動に活かした。内容は主に以下である。 ・活動計画の確認 ・活動内容の確認 ・活動の考察

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	非営利組織評価センターのベーシックガバナンスチェック制度を活用し、外部監査を実施。 https://jcne.or.jp/org/n2021e0460/ 監事による法人の業務および会計の監査を実施。
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	ガバナンス・コンプライアンス整備に向けた基本規程、第16条 (公益通報制度) 及び第17条 (相談窓口及び通報窓口) に記載し、整備している。 相談・通報の窓口は、(1) 事務局長 (2) 監事 (3) JANPIA資金分配団体等役員専用ヘルプライン (4) 警察としている。

XII. その他

自由記述

■積極的なチャレンジによる、寄付やボランティアの獲得に向けた取組

メディア取材、定期的なクラウドファンディングやSNSでの広報。そしてブログの投稿により、活動を発信し続けてきたことで、当事者にもアプローチできた。

■行政との連携における今後の課題

地元行政のみならず、利用者は県外の方も居る。そのため、他の都道府県の行政とのつながりや包括的な支援の実現のためにも、当法人の活動を発信していくことが必要と感じた。地域によって、行政的な手続きが異なるため地域差を理解してサポートしていく必要がある。

■「親子入居&期限のないシェルター」を設けたことで対応でき、必要性を感じたケース（成果より）

・ケース 内縁の夫がアル中。コロナ禍の仕事不足で自宅にいることが増えた。妊娠したが、「金がかかるから認知しない！出ていけ」と言われたが頼りたい親からも子どもの頃から虐待を受けていたため頼れない。

生活費もどんどんなくなり、仕方なく行政の支援金をもらい生活しながら一人で病院に行き出産。生まれてからも認知をしてくれない。内縁の夫は赤ちゃんの前でもアルコールを飲み大声で怒鳴り、警察を呼んだ。親子で入れるシェルターがあることを警察から聞いて乳児と一緒に保護。

これまでの人生も友人に頼りながら生きてきた利用者は、遠くの母子支援施設での赤ちゃん2人の孤独な暮らしは望まれず、友人たちにも助けをもらいながら、赤ちゃんを過ごしたいとシェルターに来られた。シェルター内では食料や生活の支援とともに赤ちゃんのための必要品も提供している。保育園に入れる年齢になれば仕事をして自立する予定。社会的、経済的、精神的にも自立するためには、長期滞在可能であることは必要であると改めて再認識した。